

「子 曰く 父母の年は知らざるべからず。一は則ち以て喜び、一は則ち以ておそる」
孔子が言った。父母の年齢は、知っていなければいけない。一つは長寿を喜び、一つは年老いたことを心いたむべきだから。

母が九十一歳にて天国へ旅立ちました。

私は勝手ながら、母は百歳まで生きてくれるものと決めつけていました。

二十一日の朝 病院から電話があり、「少し前に息を引き取られました」と告げられた時、いつかはこの時が来るとは重々覚悟していたのにも関わらず、電話口で泣き崩れてしまいました。一瞬にして子どもの頃にタイムスリップしてしまったのでしょうか。

思い起こせば、母は最後の最後まで優しい人でした。

人の悪口を言ったり、腹を立てて怒ったり。そのようなところを一度も見たことがありません。私が小学生の頃、母は悪さをした私を叱るのですが、母に叱られてもちっとも怖くないのです。怖くないのですが、厄介なのはその後、母が体調を崩して寝込んでしまうことです。それだけ人に対して攻撃をすることが苦手だったのでしょうか。

そんな母ですが、私が大学生の頃、浄土真宗に対して批判的なことを言って、議論になったことがありました。この時ばかりは母も一歩も引かず、真宗の教えを一生懸命に私に話すのであります。親鸞さんの教えが身にも心にも浸透した人でありました。

晩年は住み慣れた金沢を離れ、私達と亀山で生活することになりました。

桜の咲く頃、鈴鹿川の土手にわらびを採りによく行きましたね。母の作るわらびの酢の物、おいしいのです。

家族で旅行もよく行きましたね。旅行先でテニスをして、母はネットの近くに立って、ネットにかかったボールを拾って渡してくれる。絶えず人のために世話をしてくれる人でした。

そんな母ですから、皆から愛されていました。

家族から愛された母。家族を代表して。

お母さん、長い間ありがとう、ありがとう、ありがとう。

追伸 母の日記には、母が私を叱った後、慈悲について考えたと記されていました。

いつくしみ

慈 は悲しみの上にあるもの。私にも、この悲しみを乗り越えて慈の心が少しは芽生えますでしょうか。

【漢字検定】 検定日 2月18日(土)

申し込み締め切り 1月16日(月) ※締め切り厳守

【算数・数学検定】 検定日 3月4日(土)

申し込み締め切り 1月24日(火) ※締め切り厳守

